
合わせ鏡

田島 大腮

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

合わせ鏡

【Nコード】

N9822V

【作者名】

田島 大腮

【あらすじ】

詐欺師の男が陥った世界。

鏡の中で広がるのは同じ景色ばかり。

そうそう、悪い事はするもんじゃない。

ドアを開けると、その四角い空間にはまたドアがある。男は「またか」と溜息をついてドアを開ける。もう何十回、同じことを続けているのだろう。

その空間は薄暗い照明が頼りなく灯るばかりで、空間の隅まではつきりと見てとることはできない。光によって空間が浮き出ているようだ。

この空間にいと、男は何故か不安な気持ちに駆り立てられた。自分の悪事が全ての人にバレて復讐されているような気分。途方もない「永遠」に放り込まれたような気分。だが、不安になればなるほど、男の心にある希望の光は増していく。

「出なければならぬ」

男は呟いた。折角こんなに儲けたというのに使わないなんて勿体ない。この大金を手に入れる為にどれだけ苦労したことか。借金を返しても、ロレックスの時計やダイヤの指輪、イタリア製のスーツも手に入るのに。この大金さえあれば……この……この？

男ははっとした。人を騙してせしめた大金入りのキャリーケースはその手になかった。男は来た道に戻り始めた。もう、どこが最初の空間なのかは分からない。ただ、同じような記憶だけを頼りに閉じたドアを開き続けた。

キャリーケースは見つからない。男は冷や汗をかき始め、やがて蒸し暑くなってきてジャケットを脱いだ。男はもう、どちらが「前」でどちらが「後ろ」かも分からなくなったが、どちらかのドアを開け続けた。

ふと、男は実験してみようと思う。

ジャケットをわざと一つの空間に置いて、違う空間に入ってドアを閉める。しばらく時間を置いてジャケットを置いた空間に戻る。

そこにジャケットはなかった。どこかに移動してしまったのだろうか。詳しく見えない四隅にでも追いやられているのか。ならば地面がローラーになっていて移動しているのだろうか。どこか空間に穴でもあるのだろうか。それとも、誰かが持ち去ったのだろうか。この空間自体、存在しないものなのだろうか。男は身に着けているものをほとんど使って実験を試みたが、結局全てなくなってしまった。

肌着と靴下だけになった男は気が狂いそうだった。金はおそらく見つからない。外に出たって借金の取り立てが待っている。いや、その前にこんな所にいたら、いつか自分の体も消えてしまうのではないか…。

大声を張り上げた瞬間、地面がなくなり、男は奈落の闇へと落ちていった。

「大丈夫ですか？」

男はその声で目を覚ました。どうやら洗面所で倒れてしまったようだ。男は心底ほっとし、さっきだました男の優しい微笑みに答えた。だました男の視線がおもむろに鏡へ向く。男もつられて鏡を見た。

合わせ鏡になった鏡の中には、いくつものドアが並ぶ。男の隣にはキャリーケースを奪還した男が不適に微笑み続けている。

「悪いことは、するもんじゃない」

キャリーケースを持った男がそう言うと、男は鏡の中に吸い込まれていった。二度と、出てこれない世界。開くか閉じるかしかないドアの中で、男の体はだんだんとちぎれていく。

（後書き）

感想頂けましたら、幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9822v/>

合わせ鏡

2011年10月8日19時12分発行